

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ : <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

ご参加ありがとうございました

川崎市立図書館 読書普及講演会 「消えゆくもう一つの川崎を描く」



映像を見ながらの講演会でした

11月19日午後6時半より、文筆家・映画プロデューサーの小倉美恵子さんを講師にお迎えして、読書普及講演会「消えゆくもう一つの川崎を描く」を開催しました。募集定員を上回るお申し込みをいただき、当日は、253名の方にご参加いただきました。

小倉さんは、「オオカミの護符」「うつし世の静寂に」の2本の映画の他、お撮りになった写真などをこの講演会のために編集してくださいました。その映像を見ながらお話を聞いていただくという、普段とは少し違ったスタイルの講演会となりました。

小倉さんが生まれ育った川崎北部に残る古くからの習慣やそこに暮らす人々の結びつき、風土のお話は「わかりやすかった」との声を沢山いただきました。50年前の土橋の景色など、「懐かしい」という声と共に、現在の姿しか知らない方から「興味深い」といった声も聞かれました。また、ご自身を重ねて昔の出来事などを思い出された方も多かったようです。



沢山の質問にお答えいただきました

今回は、多数の質問が予想されたことから、質疑応答の時間を多めにとらせていただきました。講演の内容や著書を読んで疑問に思っていたことなどをご質問いただきましたが、その内容の深さに、参加された方からも驚きの声が出ていました。途切れる事なく出される質問に、一つ一つに丁寧に、誠実にお答えになる小倉さん。会場全体があたたかな雰囲気満たされていました。

当日のプログラムのために小倉さんよりご寄稿いただきました「わたしの読書体験」をこちらでもご紹介します。

私の読書体験

ボロボロになった一冊の植物図鑑。そこには、たくさんの木々や花々が細密な筆致で色とりどりに描かれ、わくわくするような世界が広がっていた。幼い私は土橋の野山や川沿いの小径で出会う草花を図鑑の中に探し出すのに熱中した。文字が詰まった「読み物」には、興味を示さなかった私に読書家の叔父が買い与えてくれたこの植物図鑑は、私と風土の関係をより深いものにしてくれた。土橋という小さな地域の中には、驚くほど多様な植物があることを知り、また、馴染みの草花の中には、この地域特有の貴重なものがあることも知った。

幼い心に芽生えた風土への関心は、開発によって封印された。ところが、映画『オオカミの護符』の製作の中で「聞き書き」した古老たちの身体には、幼い日に心奪われた土橋の木々や草花を暮らしに取り入れ、活かす知恵が宿されていた。本で得た知識が、思いもよらぬ「体験」と響き合い、血肉になってゆくのを感じた。

今、映画を作り、本を書き、私の読書の幅はかつてないほどに広がっているが、その原点には、古びた一冊の植物図鑑が導いてくれた「風土とのつながり」が息づいている。

ささらプロダクション 小倉 美恵子



❖ 図書館からのお知らせ ❖

● 貸出カードは3年ごとに更新が必要です

川崎市立図書館では、貸出カードの有効期限を3年とさせていただき、期限内に更新（住所・氏名等の登録内容の確認）をお願いしています。有効期限の過ぎたカードでは、自動貸出機での貸し出し、図書館内の検索機やホームページからの予約ができません。有効期限が過ぎていたり近づいている方は、お近くの市立図書館で更新の手続きをお願いいたします。

- 更新時には貸出カードと、免許証・保険証などの氏名および住所を証明するものが必要です。市外にお住まいで川崎市在勤または在学の方は、その証明もお持ちください。
- 更新の手続きは、有効期限の2ヶ月前から受け付けています。
- カードの有効期限は、ホームページ利用者メニューの中の「貸出状況確認／予約状況確認／メール連絡の登録・変更」で、貸出カード番号とパスワードを入力した後の画面に表示されます。

● 返却期限をお守りください

図書館資料を平等に利用するために、返却の長期滞滞に対して利用を制限させていただきます。

延滞期間	利用制限	利用可能になる日
返却期限の翌日から35日を過ぎると	貸し出し・予約・リクエストができなくなります	延滞の資料を全て返却した日
返却期限の翌日から49日を過ぎると	上記の利用制限に加え、すでに受け付けていた予約・リクエストが取り消されます	延滞の資料を全て返却した日の翌日から49日を過ぎた日

返却ポスト（行政サービスコーナーなどを含む）、有馬・野川生涯学習支援施設「アリーノ」に返却された資料の返却日は、図書館で返却の機械処理がされた日になりますので、ご注意ください。

第28回



このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。今年度は多摩川をテーマにおおくりしてきました。今回は、多摩川を題材にした写真集をご紹介します。

A：『多摩川は語る－写真集－』

東京立川ライオンズクラブ「写真集 多摩川は語る」編集委員会／編 けやき出版 1985

昭和60年発行の写真集。多摩川の源流から河口の大師橋まで、昔日の多摩川にまつわる写真が収められています。撮影年代も、明治時代後半から編集当時のものまで幅広く、在りし日の多摩川の姿を様々な角度から見ることができます。



A

B：『Tamagawa東京ネイチャー』 津留崎健／著 つり人社 2015

魚や鳥、虫をはじめとした多摩川に棲む生物を中心としながら、流れを取り巻く風景を織り交ぜて、様々な多摩川の表情を描き出している写真集。水辺を撮影フィールドとする著者により、普段は気付かない多摩川の豊かな生き物たちの姿と、多摩川に親しみ人々の暮らしとが描かれています。



B

C：『工場夜景』 工場ナイトクルーズ／編 二見書房 2015

多摩川河口から広がる川崎市南端の工場群。近年は産業の要所としてのみならず、その独特の威容が多くの人々を惹きつけ、景勝としての存在感を強めています。本書では川崎市工場群が一章を使って取り上げられ、闇夜に浮かぶ工場群の美しい夜景写真がひしめいています。多摩川河口の浮島町での、鑑賞スポットの紹介もあります。



C

D：『川風－川端初音写真集－』

川端初音／著 光村印刷 1990（ほか『花風』光村印刷 1994／『光風』光村印刷 1999／『街風』遊人工房 2014）

市内に在住する著者による四季折々の多摩川と街の写真集。1990年出版の第一集に当たる『川風』から、2014年出版『街風』に至るまでの丸子橋近辺の風物が撮影されており、多摩川と街のうつろいを見て取ることができます。

麻・生・図・書・館 30 年



麻生図書館は、昨年開館30年の節目を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。

オープン時の記念事業では、「ゆりの子座」による人形劇や、「ぐるーぷもこもこ」による布の絵本の展示会を行ったと記録に残されております。この「ゆりの子座」「ぐるーぷもこもこ」は、現在も図書館の活動にご協力いただいています。また、麻生図書館主催の「本と子どもの出会い講座」受講者が基となる「おはなしたまてばこ」は、1987年からおはなし会での読み聞かせを行っています。近年は、地域大学との協働事業も行うなど、多くの方々に読書に親しんでもらえるよう、イベントを企画しています。

■音楽といっしょに絵本の世界にでかけよう



昭和音楽大学の学生の皆さんによる、絵本の読み聞かせと音楽のコラボレーション。

大きく映し出された絵本にピアノやサクソなどの演奏が流れ、読み聞かせに耳を傾ける素敵なひと時でした。



■冬の親子おはなし会 人形劇

「ゆりの子座」の皆さんによる人形劇。可愛い人形たちが縦横無尽の大活躍。会場は子ども達の歓声に包まれました。



■おはなしひろば



「おはなしたまてばこ」さんによる絵本の読み聞かせ。

読み聞かせは本との触れ合いの大切な一歩です。子ども達は楽しみながら本と親しんでいきます。



フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

わが街・川崎のJ1サッカークラブ「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第18回は、中村憲剛選手が選ぶ1冊を紹介します。

『君の名残を』 浅倉卓弥／著 宝島社 2004年刊

《内容紹介》 目覚めると平安時代にタイムスリップしてしまう高校生の男女。平安末期の世界に紛れ込んでしまった彼らが、歴史に翻弄されながら生きていく壮大な物語です。

中村憲剛選手より

いつ何時、男女誰が読んでも面白いとすすめられる小説です。歴史、ミステリー、恋愛とあらゆる要素が入っていてオールマイティーに楽しめます。また、著者の浅倉卓弥さんの筆力が高いので、文章がどんどん入ってきて止まらなくなります。実際、僕もかなりのハイスピードで読破しました。

【14 中村憲剛選手】

フロンターレひと筋14年目、クラブのカラーをピッチで具現化する中盤の大黒柱。周りの選手との巧みなコンビネーションと一発で局面を変える勝負パスを使い分け、チームの攻撃のリズムにアクセントをつける。読書家としても知られ著作もあるが、昨年出版された『サッカー脳を育む』は図書館でも大人気。

KAWASAKI
Frontale



図書館長

お薦めの一冊



このコーナーでは、川崎市立図書館の館長がお薦めの一冊をご紹介します。

川崎図書館長 野村 充

■宮脇俊三氏の鉄道紀行

本を読む楽しみには色々なものがありますが、自分の行った事の無い場所、体験した事のない事について知る事も、大きな楽しみです。

お薦めの一冊、とは絞り切れずに申し訳ないのですが、鉄道紀行文で知られる宮脇俊三氏（1926～2003）の著作は、私にそのような楽しみを大いにもたらしてくれました。時代は昭和50年代から平成の始め頃まで。私が読んだ時点では少し前の話となっていたものもありましたが、その分、体験していなくても懐かしさのようなものが感じられました。宮脇氏のデビュー作は『時刻表2万キロ』（1978）ですが、これは当時の国鉄の全路線を踏破するために、乗っていなかった各地の支線に苦労して乗りに行った記録です。何か修行か巡礼のようにも感じられます。その後の宮脇氏の旅行は、長距離を走る各駅停車に通して乗ってみる、駅弁や沿線の味を楽し

みながら旅する、スイッチバックやループ線、鉄橋やトンネルを通過する等、日常として存在しているものに特別な意義を見出して体験するといった姿勢が旅の本質のように思われます。出版社の編集者が同行する場合は、二人旅の楽しさも感じられました。国内だけでなく、旧ソ連、中国、インド、東南アジア等も旅されていますが、そこではあくまで鉄道にこだわりのながらも、各地で出会った人々との交流も描かれています。

宮脇氏の著作には、『時刻表昭和史』のように戦前戦中の鉄道を通して自らの体験を綴った物もあり、時代の雰囲気がよくあらわされています。またミステリーや日本史に関する著作の他、『御殿場線ものがたり』等の児童向けの著作もあります。

■川崎図書館

JR川崎駅の北隣、リパークビルの4階にあります。外国語（英語、ハングル、中国語）の資料、CDが豊富にそろっています。また、壁面を活用して、郷土に関する写真等の展示も行っています。駅前ですので、通勤・通学やお買い物の際にもぜひご利用ください。



『時刻表2万キロ』
宮脇俊三／著
河出書房新社
1978

観てから？ 読んでから？

「シネマ&ドラマな図書館」やっています



第70回毎日映画コンクールの表彰式が2月16日ミュゼ川崎シンフォニーホールで行われます。これに合わせて川崎市立図書館（分館・閲覧所を除く）では、これまでに大賞をとった作品の原作や映像関連書籍を集めた特集コーナーを今年も設置しています。原作と映画の違いなどを楽しんでみてはいかがでしょうか。

★開催期間は図書館によって異なりますので、各館に直接お問い合わせください

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橋分館(788-1531)
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅閲覧所(946-3271)